

# 情報ネット後志

NO.5 2011年1月  
発行：後志農業改良普及センター

平成23年の営農にむけて  
普及活動・地域の話  
広域主査の活動の紹介



## 平成23年の営農にむけて

農林水産省が平成22年9月に公表した「2010年世界農林業センサス」によれば、日本の農業就業人口は2005年の前回調査より75万人減少し、260万人になりました。1990年には482万人でしたので、この20年間でほぼ半減したことになります。

後志管内もこの例に漏れず、就農人口は激減しており、農業産出額も低迷していることから、後志農業改良普及センターでは、平成22年から26年までの5カ年、以下の4項目を基本活動方針に定めて活動をスタートさせました。

後志農業の担い手の育成・確保に係る取り組み支援  
食と観光を活かした地域振興の取り組み支援  
収益の高い後志農業確立に係る取り組み支援  
環境と調和した農業生産に向けた取り組みの支援

日常の普及活動では、気象に応じて作物栽培に関するアドバイスや病害虫診断・土づくりなど、農業全般に係る要請支援業務に追われることもありますが、活動の基本は老若男女が共に生活し続ける地域づくりです。地域を限界集落としないためにも地域課題を重点化し、重点地域の農業者や関係機関との合意に基づき、提案技術の実証により地域の課題を解決することに努めています。さらに、活動の成果を経営経済的に評価して、地域全体に波及することを目指しています。

以下には、平成22年度の重点活動・普及課題・地域トピックスなど地域に係わる活動の概況をお知らせします。これらの活動は、目標達成のために地域関係機関・試験研究機関・総合振興局各課と連携しつつ、地域農業者とともに取り組んでいます。活動の進行管理は「P・D・C・A」と呼ばれるマネジメントシステムを基本としています。PDCAとは、「Plan(計画)」「Do(実施)」「Check(点検)」「Action(改善)」の頭文字をとったもので、まず具体的計画を立て、それを実施し、計画内容通りに実行されたかどうかを自ら反省・評価し、問題や改善点などがあれば修正・改善を行う取り組みです。今年もまた、最終到達目標達成に向けた新たなPDCAが始まります。

## H22年度の活動のようす



水稲直播の導入(本所)



「ぶどう」の実証展示ほを巡回(北支所)



女性農業者も青空教室でスキルアップ(本所)



トルコギキョウ栽培  
現地研修会(北支所)



ブロッコリーの安定生産  
(本所)



提案技術の実施について  
聞き取り(北支所)



持続的な黒松内農業の確立  
(南支所)



J A 営農指導員技術研修  
(広域)



## 秋まき小麦「きたほなみ」の安定生産に向けて

普及センターではきたほなみの安定生産を目指し、講習会やFAX情報・個別巡回で支援を行っています。適正は種その他、低タンパクになりやすい品種特性のため止葉期追肥によるタンパク向上を図ってきました。

その結果H22年産では、止葉期以降の追肥実施農家のうち低タンパク比率は2割以下となりました。

ただしタンパク過剰のほ場もあるため、地力や生育に応じた追肥が必要です。さらなる品質向上のため今後も継続して活動して行きます！



## 後作緑肥の作付拡大を目指して

京極町では、秋まき小麦や早出しにんじんの後作緑肥として野生種えん麦が作付されています。

普及センターでは、土壌病害虫対策としてさらなる後作緑肥の作付拡大を検討しています。今年は、野生種えん麦に加え、新たな緑肥として、キタネグサレセンチュウ抑制効果がある越冬ライ麦（R007）を年内すき込みを基本とし導入を目指しています。

今後は、は種時期やは種量、すき込み時期などの提案を行う予定です。



越冬ライ麦      ヘイオーツ  
緑肥の生育の様子  
(9.1は種・15kg/10a)

## 全道初の試みに勇気！YES! clean【ニセコビュープラザ直売会】 担当：本所 地域第一係

現在、ニセコ町道の駅「ビュープラザ 直売会」（三浦裕一会長）では、普及センターと連携の下、「北のクリーン農産物表示制度」（YES! clean）の取得へ向けスタートしました。

初年度における申請品目は8品目（トマト・ミニトマト・アスパラガス・メロン・カボチャ・馬鈴薯・キャベツ・だいこん）を予定しており、これまで制度基準説明会や栽培講習会を行ってきました。

こうした直売会組織での取組は、全道でも初めてとなる試みで、多くの関係者からも期待を寄せられています。

計画では従来ブースとは別とした「YES! cleanブース」を設置しての差別化・PRを図っていく予定です。

今後も直売会の動きには注目です！



ニセコビュープラザ直売会クリーン農業研究会

## 水稲直播栽培の導入で豊かなる共和農業を創造【共和町】 担当：本所 地域第二係

共和町の農業は、果菜類を中心に水稲・畑作物を組み入れた複合経営が営まれています。果菜類の管理作業により労働力が不足する状況です。

農家・地域関係機関・普及センターとも、今後の共和町農業には省力化技術の導入が必要だとの共通の意識をもって重点課題に取り組んでいます。省力化技術として水稲直播栽培のモデルほ場を設置し、導入検討を進めています。

共和町では直播栽培の経験がないため、重点地区で2戸65aで実証ほを設置し、収量が比較的安定している湛水直播による実績づくりを目指しました。



現地研修会で生育確認

今年度の実績は、鳥害による苗立ち不足やいもち病の発生により、期待されるほど収量はありませんでした。

しかし、実証ほを設置した農家からは、「直播栽培が分かってきた」「次年度の対策はどうするか？」などの直播に対する積極的な意見が出ています。

今後、次年度に向けた対策を重点農家と関係機関とで検討する予定です。

課題はまだ多いですが、重点農家・関係機関と連携した取り組みにより、共和町に適した直播栽培の確立に向け、活動を展開していきます。



稔りの秋を迎えました





ハウスの土壌調査

喜茂別町で平成 6 年から高収益作物として導入されたトマトは、栽培に適した気象と高い技術力により生産性が保たれています。

しかし、ここ数年、栽培年数の経過に伴い土壌病害や生理障害等が発生していることから、普及センターと関係機関が連携し、その発生要因の解明と対策に取り組みました。

発生状況を調査すると、塩基バランスが崩れているハウスで苦土欠乏が原因である葉の黄化症状が発生していることがわかりました。

そこで、普及センターでは実証展示ほを設置し、苦土資材の施用が有効であることを確認しました。講習会や青空教室等で道施肥標準の見直しとあわせて対策を提案しました。

その結果、各生産者が土壌の塩基バランス改善に取り組み、養分欠乏による生理障害の発生が減少しました。

喜茂別町では生産者間の情報交換が盛んに行われており、地域一丸となって、異常気象にも負けないうトマト作りに励んでいます。



青空教室で情報交換

3つの「チガウ!!」【余市町】 担当：北支所 地域第一係

予報と「チガウ!!」 襲いかかる度重なる試練!!

「農家やるようになって7月にこんだけ雨が降ったのは初めてだ・・・」

冷夏の予報が一転、猛暑。まさかあんなに雨が降るとは・・・

この雨で、露地ぶどう畑、かぼちゃ畑が水に浸かってしまい、一部では枯れてしまう「ぶどう」や「かぼちゃ」の葉が見られ、心配な日々が続きました。



生育や熟度が「チガウ!!」 やった甲斐があった!!

「おおお・・・やっぱチガウベや!!」「んだんだ!!」

度重なる幾多の試練を乗り越えた8月30日の「房づくり講習会」での生産者の第一



声でした。

「これなら5日くらい早く出せるんでねえ～か?」という声も聞かれ、生産者の皆さんの関心の高さとお手応えを感じました。

味が「チガウ!!」 消費者の素直な感想です!!

「手間をかけた方がおいしいね!!」「ウマイねえ～!!」

9月26日「余市町・第26回味覚の祭典」で「ひと手間多くかけた」ぶどうと、一般的な栽培のぶどうとの食べ比べアンケートでの、大半の評価です。「値段に差を付けるなら、ブランド名とか、違いがわかるような工夫をしないとね!!」という意見も。

今年の活動を通して得られた貴重なデータや意見を、これからの活動に役立てていきます。



味覚まつりに初登場！ 日ノ出地区の挑戦【赤井川村】 担当：北支所 地域第二係

8月7、8日、赤井川村で村の一大イベント「カルデラの味覚まつり」が開催され、重点対象の日ノ出地区区会が出店しました。日ノ出地区の農家は、地域の未来づくりのため、まつりで直売活動に挑戦することを区会で決め、実行委員会を設け、初の出店に取り組みました。



たくさん売れるといーなー

普及センターは、栽培と販売の両面からこれを支援しました。出荷予定農産物の種類や品種を聞き取り、品揃えの充実を助言し、直売の目玉

品目となるスイートコーンとえだまめの栽培を支援しました。販売面では、販売促進のPOP実例、食べ方レシピ、出荷物の管理や手数料の設定などを提案しました。



お客さんは興味津々

まつりでは、実行委員長のリーダーシップにより非農家の区会員や未出荷者の協力も得られ、全員参加の直売活動となりました。まつり終了後の意向調査でも、「来年も参加する」と答える人が9割にのぼり、今後の活動が期待されます。



## 黒毛和牛の肥育にチャレンジ！【黒松内町】

担当：南支所 地域係

黒松内町の肉牛経営は、黒毛和牛繁殖経営が大半です。平成19年から肉牛農家有志5名が「肥育チャレンジグループ」を結成し、黒毛和牛の肥育に取り組みました。

このグループの目的は、肥育のノウハウを習得することと、和牛肉を地域ブランドとして育て地域振興の可能性を探ることです。

活動には、普及センター、黒松内町、JAようてい、後志NOSA I、ホクレンなど各農業関係機関も支援に当たり、毎月の体格測定や年数回の現地検討会を行っています。

これまで第1弾として去勢牛を2頭、第2弾として雌牛を2頭を出荷し、現在は第3弾として雌牛2頭を肥育しています。

初めての取り組みとなった最初の2頭は格付けがそれぞれA3、B2となりましたが、第2弾は2頭ともA3と

なりました。

この取り組みを通じ、前回の反省点を生かしながら飼養管理の改善を実践し、更なる高格付けをめざしています。



現地検討会

## 次代を担う農業者たちが学ぶ！ 担当：広域主査(人材育成)

普及センターでは、新規学卒者をはじめ、あと継ぎのUターン、農外からの新規参入、さらには農業法人への就業など新たに農業を始めた方が、農業技術の基礎を学ぶ場として「農業ゼミナール」を開催しています。

日頃の実体験で習得する技術に、論理的な知識を加える事で、農業技術の早期習熟をめざします。また、同じ環境の就農者が集うことで、交流や情報交換の場となり、実践活動に活かされています。



本所 農業機械を学ぶ



本所 若手女性農業者の基礎学習



北後志支所 野菜栽培基礎コース

## 高付加価値化主査「出没注意！」 担当：広域主査(高付加価値化)

後志管内は、多種多様な食材に恵まれています。また、年間2,070万人(平成20年度)の観光客が訪れる優れた観光資源を持つ地域です。地域経済の活性化のためには、地域の豊富な産業資源の活用や産業間が連携した、オール後志の取り組みが必要です。このような取り組みを支援するために「高付加価値化主査」が配置されました。

現在、地域係と連携して地域資源(生産される農畜産物、加工技術、優良事例、加工・流通など各種業者)の調査を行っています。

今後、普及センターでは、地域の皆様と一緒に地域資源を活かした地域農業の振興、農業の高付加価値化に繋がる農商工連携に取り組んでいきたいと考えています。

よろしくお願ひします。



関係企業調査



生産者優良事例調査

### 後志農業改良普及センター本所

住所 虻田郡倶知安町旭57-1

TEL 0136-22-1072

FAX 0136-22-4744

<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/fukyu/sbc/index.html>

### 南後志支所

住所 寿都郡黒松内町字黒松内309

TEL 0136-72-3161

FAX 0136-72-3456

<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/fukyu/sbnan/index.htm>

### 北後志支所

住所 余市郡余市町朝日町11番地1

TEL 0135-22-5135

FAX 0135-22-5987

<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/fukyu/sbk/index.html>